

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775502418		
法人名	社会福祉法人 ほのぼの会		
事業所名	グループホーム桜ヶ丘 杏番館		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府八尾市桜ヶ丘1丁目20番地		
自己評価作成日	令和4年6月1日	評価結果市町村受理日	令和4年9月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、各々の利用者様の個性を生かし、生活週間や能力に配慮し、可能な限り主体的な生活ができるよう、家事全般へかかわる機会をつくり、役割と生きがいを持って暮らせるよう援助している。また、手作りの食事にこだわり、毎食おいしく食べていただくことで、食べることの楽しみを生活のひとつとして感じられる食事の提供を心掛けている。

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosvoCd=2775502418-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階)		
訪問調査日	令和4年8月24日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理事長が、自分の身内が認知症になったことをきっかけに「安心して暮らせるグループホームを作りたい」との思いで開設したグループホームです。駅から近く、交通の便の良い立地に建てられています。ホーム周辺は、マンションが立ち並ぶ中にも近くに公園があり、窓越しには農園が見え、季節の移ろいを感じることができる環境です。「家庭的な雰囲気の中で利用者の個性を生かし、『自由』『尊厳』のある日常生活をすごせるよう、継続的に自立支援を行います」を理念に掲げ、「家にいた時の続きの生活の実現」「利用者は人生の先輩」を職員間で共有し、家庭的な暮らしを大切にしています。3食手作りの食事は自慢の一つで、オープンキッチンでの食事準備の時から、利用者は食事を楽しみに待っています。コロナ禍で外出や外食等制限のある毎日が続いています。時間がある限りレクリエーションを工夫し、楽しい時間を作っています。フロアから聞こえてくる利用者や職員の歌声から、法人の名前のように、ほのぼのとした雰囲気が伝わってくるグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775502418		
法人名	社会福祉法人 ほのぼの会		
事業所名	グループホーム桜ヶ丘 式番館		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府八尾市桜ヶ丘1丁目20番地		
自己評価作成日	令和4年6月1日	評価結果市町村受理日	令和4年9月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、各々の利用者様の個性を生かし、生活習慣や能力に配慮し、可能な限り主体的な生活をする事ができるように、家事全般へかかわる機会をつくり、役割と生きがいを持って暮らせるよう援助している。また、手作りの食事にこだわり、毎食おいしく食べていただくことで、食べることの楽しさを生活のひとつとして感じられる食事の提供を心掛けている。

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JlgvsoyosCd=2775502418-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階)
訪問調査日	令和4年8月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理事長が、自分の身内が認知症になったことをきっかけに「安心して暮らせるグループホームを作りたい」との思いで開設したグループホームです。駅から近く、交通の便の良い立地に建てられています。ホーム周辺は、マンションが立ち並ぶ中にも近くに公園があり、窓越しには農園が見え、季節の移りを感じることができる環境です。「家庭的な雰囲気の中で利用者の個性を生かし、『自由』『尊厳』のある日常生活をすごせるよう、継続的に自立支援を行います」を理念に掲げ、「家にいた時の続きの生活の実現」「利用者は人生の先輩」を職員間で共有し、家庭的な暮らしを大切にしています。3食手作りの食事は自慢の一つで、オープンキッチンでの食事準備の時から、利用者は食事を楽しみに待っています。コロナ禍で外出や外食等制限のある毎日が続いているますが、時間がある限りレクリエーションを工夫し、楽しい時間を作っています。フロアから聞こえてくる利用者や職員の歌声から、法人の名前のように、ほのぼのとした雰囲気が伝わってくるグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当施設オープン時より「家庭的な雰囲気の中で利用者の個性を生かし、『自由』『尊厳』のある日常生活を過ごせるよう、継続的に自立支援を行います」を理念として掲げ、利用者の個性を大切にサービス提供を心掛けている。	「家庭的な雰囲気の中で利用者の個性を生かし、『自由』『尊厳』のある日常生活を過ごせるよう、継続的に自立支援を行います」を理念に掲げ、「家にいた時の続きの生活の実現」「利用者は人生の先輩」を職員間で共有し、家庭的な暮らしを大切にしています。起きる時間や食事の時間等、利用者一人ひとりのペースを大事にした暮らしとなっています。	玄関等に、理念の掲示を検討されてはいかがでしょうか。職員が日常的に理念を確認したり、外部からの訪問者に理念を理解・支持してもらうことに繋がることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当施設の周辺には、マンションが立ち並んでいる環境の中で、その住人との交流は極めて難しいが、すぐ近くに公園があり、穏やかな季節には散歩に利用しているため、近所の公園利用者と顔見知りになり、挨拶しあう関係等はできている。	マンション住民が多く、自治会活動のない地域ですが、近くの公園や散歩の途中で顔見知りになった方々と挨拶しあう関係ができており、隣の畑で採れた野菜を頂く等、地域住民との自然な交流が続いています。演芸や音楽レクリエーションのボランティアの訪問も利用者は楽しみでしたが、現在はコロナ禍で中止の状況です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や入所相談といった形で来所される方に対し、必要に応じて介護上のアドバイスやその他の介護サービス等に関する説明などを行うこともある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当施設の取り組み内容を報告するとともに、困っている事や、解決つかない問題、進め方等を会議に提起し、いろいろな提案を受けたりアドバイスを頂くなど、活用している。	家族代表、民生委員、地域住民代表、地域包括支援センター職員の出席で会議を開催し、参加者からの意見や助言をホームの運営に活かしてきましたが、現在はコロナ禍のため、民生委員、地域包括支援センター職員のみでの参加者で実施しています。会議の議事録は、家族に送付しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営上の点などに関して行政担当者の意見を聞きながら進めるようにしている。また、家族とのトラブルが予想される場合なども施設の意向の説明等を行い、円滑な解決が図れるよう指導を仰いでいる。	日頃から、困ったり迷ったりしたら、市の高齢介護課へ相談しています。管理者は市の施設部会やグループホーム事業所分科会に参加し、市との連絡や協力関係を築いています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠システムの変更は困難なことから、利用者の状況に応じた対応をするよう心掛けている。また利用者への声掛け等、日頃から細かい点に気を配り威圧感を与えないよう注意している。車椅子から立ち上がり、転倒のリスクの高い方の車椅子に腰ベルトを装着しているが、家族様には同意をえている。	身体拘束廃止のための会議を定期的開催し、高齢者虐待・身体拘束に関する研修も実施しています。安全ベルトを使用している利用者がいますが、身体拘束の3原則を守り、家族にも同意を得ています。管理者はスピーチロックについても細やかに指導し、職員間でも常に意識しながら注意をし合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	半年に一度程度、虐待防止の内部研修を行っている。また入浴の際には必ず身体チェックを行い、変化があればすぐに報告するよう教育している。報告をうけて、不審な点があれば、徹底的に原因究明している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活支援のための家族からの援助が得られにくい方へは、生活支援のためのサービスがあることを伝え、利用される場合の援助を行うこともある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	これまでの反省をふまえ、家族等の疑問には事前に十分な説明を行うこととし、契約上重要な事項は特にしっかりと伝えることを心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には必ず参加して頂き、色々な意見や要望などを出して頂いている。またその意見や疑問等には真摯にお答えするように努力している。	コロナ禍で現在は家族の面会は制限していますが、これまでは家族の訪問時に、職員は利用者の生活状況を報告しながら家族の要望も聞いてきました。面会が制限されている今は、電話で利用者の様子を密に伝えることを心がけています。	コロナ禍で家族の面会は制限された状況です。面会できない家族の気持ちを配慮して、より安心が得られるように、日常の暮らしぶりの報告等の検討を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回合同フロア会議を行っている。各職員はその場にて自分の意見を発言したり、疑問を提起するなど現場責任者と意見交換したり、情報の共有を図るなどの機会を設けている。	毎月1回、全職員で会議を開催しています。会議では毎月テーマを決めて研修を実施し、行事などの検討や利用者の状況についての意見交換をしています。「スタッフが働きやすい職場のために、みんなで考え相談しながら決定し、実行していく」ことをホームの方針としています。管理者はいつでもフォローできるように現場に目を向けることを心がけ、職員は管理者が職員のことをいつも気にかけてくれていることに感謝しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員は現場責任者と定期的に個別面接を行い、就業中の態度の評価や、不十分な仕事面の改善指導を受ける場が設けられている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場での内部研修を年間計画のもとで実施し職員として必要な知識や技能を学ぶ機会を設けている。外部研修に関しては、事業所として入手した情報を全体化し自主的な参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八尾市内のグループホーム協議会が開催する会議や講習会には必ず管理者または現場責任者が参加し、他の事業所での取り組みや課題が共有できることで、当事業所の運営にも役立てている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必ず家庭訪問を行い、ご本人の情報を直接入手するとともに、ご本人に面会することで、訪問者との面識ができ入所初期の不安の軽減につなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の場や家庭訪問の折に家族様の抱えている問題や心配事を聞き、提供上実施できる事とできない事等を具体的にお伝えしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	八尾市内のグループホーム協議会が開催する会議や講習会には必ず管理者または現場責任者が参加し、他の事業所での取り組みや課題が共有できることで、当事業所の運営にも役立てている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の持っている力が出来るだけ発揮できるよう、食事づくりや日常の生活行為の中で、ご本人が出来る事を支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居によって家族との関係が切れたり、希薄にならないよう無理のない範囲で面会の機会を持つことを推奨しており、家族だけが果たせる役割があることを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の家族、友人等の面会を推奨しており、来所された場合ゆっくり過ごして頂けるよう支援している。当方の直接の援助による外出はできていないが、家族等との外出機会を持って頂くことを進めている。	職員は、これまでの馴染みの関係を少しでも継続することが利用者にとって大切なことと理解し、支援に努めています。コロナ禍で馴染みの人たちとの面会はできない状況ですが、誕生日や母の日等には、家族や友人の代弁を兼ねてお祝いメッセージを贈っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様間での相性の良し悪しを見極め、一人一人が気持ちよく過ごせるように、食事の席を決めたり、余裕のおしゃべりを楽しめる環境を作るなどしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事務所としてできる範囲の援助は行うことを考えている。入院等のあと亡なられた連絡を頂いた時は、ご葬儀に臨席させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居の前後に、ご本人やキーパーソン、また担当されていたケアマネ等に情報を聞き、ご本人・ご家族の意向を把握するように努めている。	認知症の方とのコミュニケーションの研修を実施し、見る・聞く・気づくことに留意し、その中で「共感」「受容」を通して利用者が発するメッセージを受け止めることを学び実践しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前後にもご本人・ご家族に、ご本人の生活歴や楽しみ等を聞き生活の中で活かせるよう工夫している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の意欲や能力を把握するとともに、その変化に速やかに気が付くよう、日々の申し送り等で情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にご本人及びご家族に対し、要望や意見等を聞く機会を設けている。その上でフロアごとのカンファレンスの機会を持ってすべての職員がかかわりながら、一人一人に合った介護計画を作成している。	利用者・家族の思いや希望を尊重した介護計画を立てています。基本は6ヶ月毎、状態に変化があった場合は随時見直しています。モニタリングは1ヶ月毎に実施しています。家族とは電話で連絡を密にとり、情報を共有しています。管理者は介護計画作成の際には「その人を観て、本当にこれでいいのか」と思いながら作って欲しい」と計画作成担当者に伝えています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	体調の変化や、行動の変容がみられたことを記録に残すようにしている。職員全員が必ずそれを熟読し、記録内容から一人一人のその時の状態像がつかめるよう、また小さな変化も気づけるよう努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者に経済的な問題が発生した場合の相談援助として、生活保護申請の援助を行ったり、家族・身内の援助が困難な方には、日常生活支援サービスの利用を勧めたりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の家族・兄弟・友人等との継続的な繋がりを大切にし、施設入所によって孤立したり疎外されたりすることのないよう気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅医療に理解と実績のあるかかりつけ医を推奨しており、定期的な往診を通して利用者の健康管理を行っている。24時間いつでも対応できる体制ができています。	協力医療機関による月2回の訪問診療と週1回の訪問看護を受けられますが、希望があれば入居前のかかりつけ医への受診も可能です。24時間対応で急変時の連絡も常に可能です。「休日・夜間緊急急変時連絡表及び対応マニュアル」を文書化し、職員間で共有して安心と安全に努めています。歯科医の往診もあります。口腔ケアについても管理者はとて大切なことであると考え、支援に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との間で心身の状態、その他の情報を共有し、必要があれば主治医へつなげ、適時・適切に医療対応ができる体制を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には、介護職が付き添い、病状を伝えたり服薬情報を提供したり、介護サマリーを作成し提供している。また、退院の調整に対しても、直接病院を訪問し、担当の医師或いは看護師から必要な情報を得て、受入れ態勢づくりに生かしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	以前に数名の看取り実績があり、それをもとに、現実に施設として対応できる範囲等を事前に家族様に説明している。また、主治医の協力の下で、家族様にも納得のいく終末期を迎えられるよう努めている。	「重度化及び看取りに関する指針」にそって看取りケアをしています。全職員による会議で看取りに関する認識を共有し、研修会も実施しています。本人や家族との話し合いを大切にして家族の気持ちに添った看取りとなるよう支援をしています。コロナ禍の中ですが、感染対策をして面会に応じています。管理者は職員の精神的なケアにも取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内の研修において、急変時の対応の方法等を学ぶ機会を作っている。机上の学習が中心になるため、実践的な面では十分といえないところもあり、実用性の高い技術習得を課題としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会のない地域にあり、周辺住民との繋がりを作りにくい環境にある。火災訓練を中心に独自で企画・実施を行っており、万が一の事態の時に職員全員が訓練で身に着けたことが活かせることを目標にして反復訓練を行っている。	夜間も想定した年2回の避難訓練のうち1回は消防署立会いの下で行っています。非常災害時の緊急連絡簿を作成し、訓練実施結果表で訓練を総括しています。役割担当者や対応手順、必要な鍵の保管場所について具体的に示すなど緊急時に即した取り組みをしています。非常災害時の備蓄品は3日分用意しています。	個数や枚数、消費期限を記入した「備蓄品一覧表」「保存食一覧表」を作成し、管理しやすいようにされてはいいかでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に対し、職員が指示的になったり威圧的になったりしないよう、日々の利用者様の対応で気が付いたことは注意・指導している。	個人のプライバシーや人格を尊重するケアに努めています。個人情報保護法や接遇に関する研修もしています。職員の不適当な対応の仕方に遭遇した場合、管理者はプライバシーへの配慮について具体的に伝えてます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の風呂誘導やトイレ誘導等の場合でも、ご本人の意思確認を行いながら、表出された意思や感情、気分等に配慮して関わるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様がご自分の部屋に閉じこもったり疎外感を感じたりしないよう、声掛けは頻繁に行うようにしている。無理に離床させたり、或いは無関心にならないように利用者様の状態等を考慮しながら関わりを持っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の気に入った服装で過ごして頂くようにしており、施設として規制はしていない。また、ヘアスタイル等もご本人や家族様の意向を大切にしている。女性の場合は、習慣としてきた化粧等への支援もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様とメニューを考えたり、危険性の伴わない簡単な調理の手伝い、野菜の皮むき、もやしのひげとり等は毎日行っている。食後の食器拭き等も日課として定着している。	献立表と食材は業者から毎日届けられ、料理が得意な職員が毎食調理します。明るく広い食堂で利用者は職員と共にゆったりとした雰囲気の中で食事を楽します。利用者はテーブルや食器、お盆拭きなどを手伝います。コロナ禍の中、外食は自粛していますが行事食やイベント食で食べる楽しみに繋がっています。誕生日にはケーキを取り寄せお祝いします。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量や1日を通しての水分摂取量などをチェック表に記入し管理している。また、利用者様の嗜好を把握し苦手な副食の場合は、別のもので提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、口腔内の衛生状態に気を付けている。また、訪問歯科による定期的な口腔ケアを受けたり必要な治療を受けることを推奨している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的にはトイレでの排泄介助を行っている。歩行の不安定な方で夜間のみポータブルトイレを使用される場合もある。排泄チェック表を活用しそれぞれの排泄パターンにあわせて援助している。	排泄パターンを把握し、さりげなく声掛けてトイレまでの移動支援をしています。夜間は2時間毎に声掛けをしますが、睡眠の妨げにならないように配慮しています。1名の利用者は夜間のみポータブルトイレを使用しています。トイレでの排泄介助を大切にして自立支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方へは、主治医から薬の処方があり服薬介助をしているが、日々の排便状況を把握しながら細かく対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は勤務体制の都合上制約があるが、基本的に隔日入浴を目標に実施している。	入浴は週2回で同性介助です。入浴を好まない利用者には無理強いをせず清拭や足浴で支援します。入浴剤を入れたり、ゆず湯や菖蒲湯で季節を楽しみます。好みの石鹸・シャンプー・化粧水などを使う利用者もいます。浴室は一般家庭と同様の作りで、滑り止めマットを敷き、不安なく入ることができます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転したり居室への閉じこもりを防ぐため、一定の生活習慣がつけられるよう援助している。起床や就寝に関する時間的な目安はつくるが、画一化したり強制にならないよう注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の取り扱いには特に注意し、医師の指示に従って一人一人に服薬介助を行っている。服用薬の事前セットの段階から服用していただくまでの間、間違いや漏れ等ないか複数の目でチェックするようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居までのご本人の生活習慣や職歴、趣味や特技などの情報を集め、できること、したいことが活かせるよう援助している。逆に苦手なことなどを強要することのないよう注意している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出機会は朝の散歩に限られているため、ご本人の外出希望に沿うためにはご家族様の援助をお願いしている。気分転換のための散歩、外出や買い物、家族宅への外泊を行っているご家族様もある。	外気浴を兼ねて、敷地内のテラスや中庭を散歩しています。近くの公園では近隣の住民との花見を毎年楽しんでいましたが、コロナ禍で現在は中止しています。外出自粛の中、スイカ割りや七夕飾りなど施設内でのレクリエーションを多く取り入れ、下肢筋力の低下予防に繋げています。職員は時間のある限り利用者に寄り添い気分転換ができるように支援に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各居室には施錠がないので、『盗まれた』などのトラブルの原因にならないよう、ご家族様、利用者様の理解を得てお金の所持は控えて頂いており、必要があれば立替え払いにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいと要望される方はおられ、ご家族様の了解のもとで電話での通話を援助している。現在、手紙を書いたり出したいと要望される方はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間・居住空間ともに常に清潔で気持ちよく過ごせるよう、毎日清掃を行っている。また、中庭の咲いている花をフロアーに飾ったりして、季節感を感じて頂けるよう工夫している。	明るく広いフロアで、大きな窓からは陽射しが降り注ぎ、広がる街並みが望めます。1階のフロアは掃き出し窓から中庭に出ることができ開放感があります。フロアにはピアノが置かれプロの音楽家によるコンサートも楽しみの一つでしたが、現在は中止の状況です。ゆっくり座れるソファが設えてありくつろげる空間作りがされています。対面式キッチンで職員の調理する姿を見ながら利用者は食事を待ちます。隣の畑で育てられた季節の野菜を楽しむ事もできます。温度、湿度、照明は快適に設定されています。フローリングは年1回業者による清掃を実施しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に自由に過ごして頂けるように、窓辺のソファや長椅子などを設けている。また、気の合う方同士で、テーブルを囲んでゲームをしたり歌を歌ったりして頂けるよう、居場所作りに配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた家具や寝具を持ち込んで頂いたり、長年愛用していた品、馴染みの物などを身近に置かれることをお勧めしており、殺風景な環境にならないよう配慮している。	居室前の廊下を隔て、大きなロッカーが利用者毎に設えてあります。表札の横には職員手作りの飾り物が添えられ、わかりやすく工夫しています。洗面台・ベッド・タンス・エアコン・防災カーテンはホームで設置し、利用者は好みの物、馴染みの物を持ち込み、過ごしやすい居室づくりをしています。窓からは隣の菜園で農作業をする人の姿を見ることができます。居室の床面は、クッション性のマットが敷かれ、転倒による衝撃の緩和に繋がります。「利用者が安心して暮らすことができる」を大切に支援に努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の食事席を決め、食事やおやつ等の時にその都度迷われないように案内している。各部屋には表札を掛けご自分の部屋であると分かりやすくし、トイレも同様に廊下や入口に大きく案内表示をしている。		